



▲木津神明神社秋季祭礼（令和5年9月23日）▶

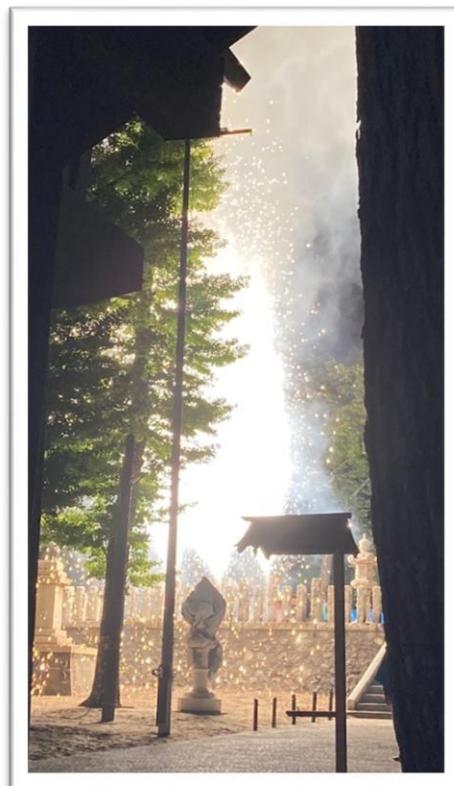
『「祭り」は地区最大の行事』

市内各地の秋祭りは、コロナ禍により中止や縮小しての開催を余儀なくされましたが、今年はようやく以前のような活気に溢れた祭りが復活してきました。

古くから祭りは地区を挙げての最大の行事で、子どもたちは軒を並べる露店や獅子舞に心を弾ませ、各家庭では遠方からも親類・知人が大勢集まり、大いに盛り上がったものでした。

9月23日、木津区で行われた秋季祭礼では、二頭の獅子と多彩な棒振りが神輿を先導し、町内や海岸を練り歩きました。

夜も更けた午後8時ごろ、神社の境内では大勢の見物客が見守る中、木津煙火保存会による勇壮な吹き出し花火が行われ、祭りの終焉を迎えました。



かほく市史編専門委員会 近世部会長 ごあいさつ

袖吉 正樹

『かほく市史』資料編3近世は、令和12年度の刊行を予定しています。刊行は7年先となりますが、『宇ノ気町史』『七塚町史』『高松町史』の3町史の発刊からすでに50年が経過しており、当時の史料の所蔵者をはじめ、市内外を問わず多くの史料調査をしなければなりません。

現在、近世編を担当する専門委員が9人所属しており、史料の調査や収集・整理に当たっております。広く市民の皆様に、かほく市の先人たちの歩んできた道を知っていただくとともに、かほく市の豊かな歴史についても理解していただく一助なればと思っております。

そのためにも、私たち専門委員ばかりでなく、市民の皆様のご協力も必要となってまいります。多くの情報を市史編さん室にお寄せください。皆様と一緒に市史をつくり上げられれば幸いです。

災害発生と対策の歴史

かほく市は災害が少ないイメージがありますが、過去を振り返ると水害、豪雪、地震など数多くの災害に見舞われてきました。

最近では、7月12日の夜、かほく市で「線状降水帯」が発生し、最大1時間降水量85.5mmの猛烈な雨量を記録しました。そのため、各地区で住宅や道路、田畑等で大きな被害が発生したことは記憶に新しいところです。

【写真1】は昭和38年頃、旧宇ノ気川が氾濫した森地区付近、【写真2】は昭和39年、河北潟の水位が上昇し冠水した内日角地区周辺の航空写真です。こうした度重なる水害も、新宇ノ気川の貫流や河北潟の排水施設の整備により大幅に防ぐことができるようになりました。

かほく市史においても、このような災害発生の歴史と人々の苦勞、対策等を記録に残していくことが重要だと考えています。



【写真1】(かほく市役所所蔵)



【写真2】(松井英俊氏提供)

古い文書や写真はありますか

かほく市史編さん室では、市民の皆様から次のような情報提供をお待ちしています。

- ◆自宅や土蔵の中に古い文書や写真がある。(何の文書が分からなくても結構です)
- ◆どこそこのお宅に古い文書や写真があると聞いたことがある。あるいはありそうだ。
- ◆地区の公民館やお寺、神社などに昔からの書類や写真がある。
- ◆この地区には、今は失われたけど昔こんな行事があった。

些細なものと思われるものでも構いませんので、ぜひご連絡ください。



連絡先(電話・FAX番号、メールアドレス)は最終ページをご覧ください。

『これまでの調査から』

子ども祭(指江)

指江では、古くから集落を北と南に分け、北では2月に「大將軍祭」、南では7月に「赤城祭」という子ども主体の珍しい祭りがあります。

以前とは形も変わってきていますが、子ども会が中心となって受け継いでいこうと頑張っています。

写真：2月の「大將軍祭」では子どもたちがくじ引きを楽しんだり、赤飯や餅の販売を行ったりしています。



石造遺物調査(高松)

神社や寺院内の石碑、地域に残るお地蔵さんなどの石造遺物を調査しました。

彫られている文字などから、年代や作られた背景、人々の願いなどが分かる貴重な史料となっています。

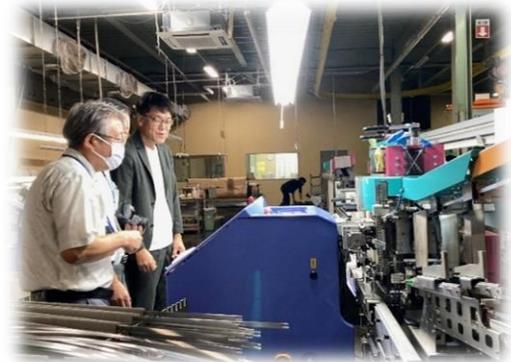
写真：かつて額神社のあった場所(古宮)に建つ石碑を調査する専門委員



繊維工場調査(高松・七塚・宇ノ気各地区)

繊維産業は、戦前から戦後にかけて、漁業やぶどう農家から転業した人達によって急速に発展しました。その後厳しい状況の時もありましたが、今ではかほく市の代表的な地場産業となっており、特にゴム入細巾織物では全国の60%以上をかほく市から供給しています。

今回調査をお願いした3社では、それぞれ独自の製品開発とブランドづくりに取り組む強い熱意を伺うことができました。ご協力ありがとうございました。



カジレーネ(株)：化合繊維物



(株)気谷：製紐(せいちゅう)



吉田司(株)：サポーター製造

コラム かほく市の歴史お宝

「村御印」

藩政時代、加賀藩の3代藩主前田利常が、改作法という藩財政を立て直すことを目的とした改革を行い、明暦2年（1656）に、すべての村に「村御印」（藩主の印が押されている）というその村で納入すべき年貢を記した文書を交付しました。その後、寛文10年（1670）に「新京升」に改定された際に新たに再交付されています。

現在市内で現存が確認できるのは10地区の村御印で、かほく市の文化財に指定され、市や区、個人宅で保管されています。

村御印には、草高（米の生産量）や税率、各種産品の賦課金などが記されており、砂丘地帯の村では米が作れないのでそれ以外の産業に対し銀で税を納めるよう記されていて、当時の村の特徴をうかがい知ることができます。

現在、うみっこらんど七塚「海と渚の博物館」に外日角村の村御印が展示されていますので、興味のある方はぜひご覧ください。



余地村「村御印」

草高は683石で、免（税率）は4ツ4歩（44%）、その他の諸産業に対しては銀で支払います。



外日角村「村御印」

米の生産が無いので、米以外の諸産業に対し銀で支払います。

編さん室の歩み(活動記録)6月～10月まで

6～10月	石造遺物調査2回 6/4, 10/7	7月3日	河北潟干拓土地改良区調査
6～10月	古文書調査8回 6/5, 6/8, 6/9, 6/12, 6/16, 7/5, 9/2, 9/19	7月12日	高松小3年生編さん室見学
6～10月	寺院調査5回 6/26, 7/25, 9/12, 9/20, 10/24	7月22日	指江子ども祭調査
9月	祭礼調査（事前含む）3回 9/14, 9/23, 10/7	7月24日	ぶどう園・集荷場調査
9月	工場調査2回 9/26, 9/28	7月31日	第1回近代部会・市内巡検 学校コディネーター編さん室見学
6月23日	第1回現代部会	8月24日	内日角伝承芸能保存会調査
		8月31日	第1回編集専門委員会
		10月14日	第2回古代・中世部会
		10月19日	編さん委員会

お問合せ・資料の提供はこちらまで

かほく市史編さん室

〒929-1215
かほく市高松ク4 2番地1
かほく市高松産業文化センター3階

TEL: (076) 281-3455
FAX: (076) 281-3521
E-mail: shishi@city.kahoku.lg.jp

